

# 環境・社会活動報告書

2004

株式会社 西武百貨店



カラマツの実生(稚樹)／ハケ岳高原ロッジにて

# C O N T E N T S

編集方針.....	1
会社概要.....	2

## 西武百貨店がめざす環境活動

コミットメント.....	3
新たな中期計画に向けて<2004~2006年度>...5	
事業活動による環境への影響と環境保全.....	7

## 環境マネジメントシステム

環境マネジメントのしくみと運用状況.....	9
環境教育と意識づくり.....	11
活動状況のチェックと改善.....	13

## 活動結果のご報告

2001~2003年度の環境目標と活動結果.....	15
環境負荷の少ない百貨店事業をめざして.....	17
“環境にやさしい生活”のニーズ にお応えします.....	19

## 地域・社会の一員としての活動

一店、一店が地域に役立つ環境活動をめざして取り組んでいます.....	21
地域社会の一員として、 さまざまな貢献活動を行っています.....	23
お客さまに信頼される百貨店として.....	25
店も従業員も地域社会の一員です.....	27
社員との公正な関係づくりに努め、 “百貨店という仕事”のやりがいを高めます.....	28
西武百貨店の環境・社会活動に関する 情報提供やお問い合わせにお応えしています.....	29
西武百貨店の環境・社会活動のあゆみ.....	30

## 【編集方針】

今回の報告は「環境・社会活動報告書」と名称を改めてから2冊目、2000年度に環境保全活動の報告をはじめてから通算で5冊目の発行になります。前回に続き、企業の社会的責任に基づく取り組みについて、環境的側面を中心に社会的側面、経済的側面を含めてご報告いたします。

本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン2003」をふまえながら、「環境報告書作成基準案」に定められた基本的な枠組みに沿って作成しました。また、前回報告書へのご意見・ご感想をもとに、ページによりバラツキがあった文字の大きさをできるだけ標準化し行間を広げた 理解しにくい用語については解説を加えた 環境目標の達成・未達成がひと目でわかるように、成果の表示を統一したなどの改訂を行いました。

小売業の使命として、さまざまなステークホルダーに環境への取り組みに対する理解を深めていただくために、ディスクロージャーのみならずコミュニケーションを深めるための報告書へと改善を進めております。添付のアンケート用紙もしくは西武百貨店ホームページをご利用の上、ご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。本報告書についていただいたご意見は、次回の報告書に反映し、継続的な改善を図ってまいります。

### 【報告対象期間】

2003年度(2003年3月~2004年2月)

\*一部2004年3月以降の活動と中期目標を含む

### 【報告対象組織】

ISO14001規格取得サイト

株式会社西武百貨店18店舗(本西武含む)全事業所

株式会社ミレニアムリテイリング商品本部・テナント本部・総務本部

### 【報告対象分野】

環境的側面・社会的側面・経済的側面

### 【参考】

環境省「環境報告書ガイドライン2003」、「平成15年度環境報告書基準委員会報告書」

経済産業省「ステークホルダー重視による環境レポートガイドライン2001」

GRI「GRIサステナビリティレポートガイドライン2002」

### 【発行】

株式会社西武百貨店

## 会社概要 (2004年2月末現在)

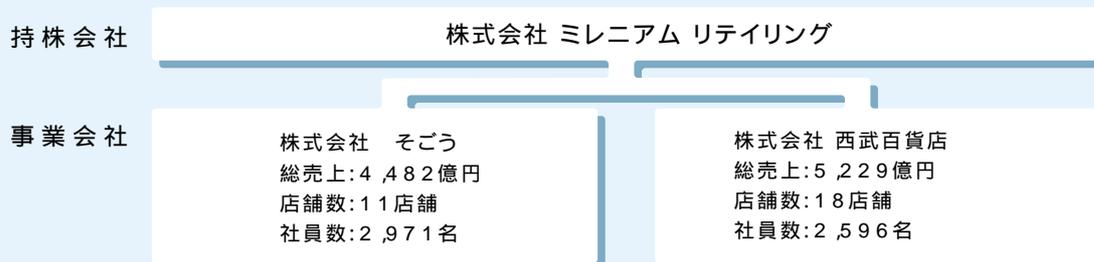
(株)西武百貨店は2003年6月から、ミレニアムリテイリンググループの事業会社として新たにスタートいたしました。  
(株)ミレニアムリテイリングは持株会社として本部機能を担い、(株)西武百貨店は百貨店事業の運営機能を担っております。

### 株式会社 ミレニアムリテイリング

Millennium Retailing Inc.

本社所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目1番2号(JFEビルディング)  
 設立 1952年7月25日  
 資本金 199億4,100万円  
 代表者 代表取締役社長 和田 繁明  
 HP <http://www.millennium-retailing.co.jp/>

### ミレニアムリテイリンググループの構成



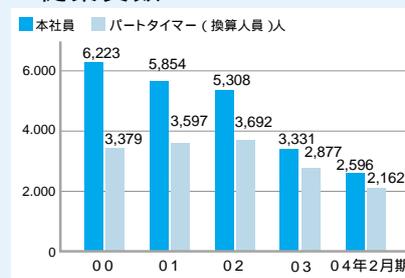
2004年2月期決算の開示情報です。

### 株式会社 西武百貨店

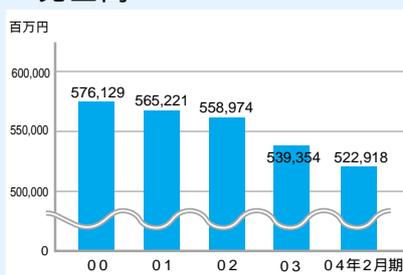
The Seibu Department Stores, LTD

本社所在地 〒171-8569 東京都豊島区南池袋1丁目28番1号  
 設立 1940年3月14日  
 資本金 378億4,890万4千円(2004年8月末現在)  
 代表者 代表取締役社長 大崎 文明  
 年商 5,229億18百万円  
 事業内容 百貨店業  
 店舗数 18店舗(本西武含む)  
 HP <http://www.seibu.co.jp/>

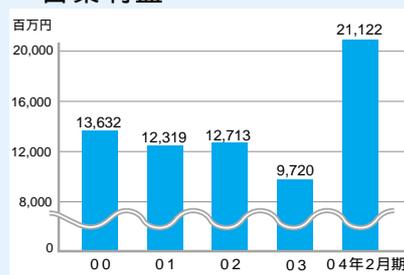
### 従業員数



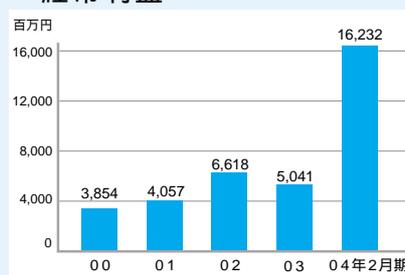
### 売上高



### 営業利益



### 経常利益





### コミットメント

# 企業の社会的責任が厳しく問われているなか、 私たちは環境活動を通して 「次世代につながる豊かさ」を実現していきます



株式会社 西武百貨店  
代表取締役 社長

大橋 文明

### 企業市民としての 社会的責任

私たちは、地域に根ざし、消費者の皆さまに最も近いポジションで事業を展開する小売業として、当社に働くすべての従業員の行動指針である「全社行動基準」の最重要項目として「常に社会の一員として自覚をもって行動する」ことを掲げ、企業市民としての事業活動の推進を心掛けてきました。

今日、企業の倫理観を厳しく問う事例が相次いで表出しています。さらに地球温暖化による気温の上昇や生態系への影響、食卓の安全性への危惧など、企業の社会的役割と責任の重要性がますます高まっています。それは単に経済的側面での貢献だけでなく、環境活動を含めた社会的責任を果たしていくことが、極めて重要になってきている表れにほかなりません。

### 社内から地域へと拡大する 環境活動

西武百貨店は、全社行動基準にうたった社会的責任を果たすために、「環境活動」を重要テーマの一つとして捉え1999年、百貨店業界で初めて環境マネジメントシステム「ISO14001規格」認証を取得し、同システムにのっとり活動を着実に進めてまいりました。法令遵守にもとづく環境リスクマネジメントはもとより、お取引先との納品の仕組みの改善、環境配慮商品の選定・開発、店内で発生した生ゴミをコンポスト化した肥料で栽培した野菜の販売などのほか、お客さまのご協力を得て行っている簡易包装やマイバッグの利用促進など、活動範囲は社内から地域の方々とともに行う活動へと拡大しています。

### 地球温暖化の抑制を 重点テーマに設定

2004年度は、これまでの環境活動の成果と課題抽出を踏まえ、本年を初年度とする新たな3年間の中期目標として「6つの柱と11の取り組み」を設定しました。特に、緊急かつ地球的課題として認識されている「地球温暖化」対策を最重点目標として、お客さま、地域社会の皆さま、お取引先など、あらゆるステークホルダー(利害関係者)の皆さまと手を携えて環境負荷の削減に取り組んでまいります。

すでに昨年度から、環境省の呼びかけに応じて「温室効果ガス排出量取引試行事業」に参加して将来に向けた学習を深め、環境負荷の削減に積極的に取り組んでいる行政、例えば神奈川県などは、東戸塚店が商業施設として地域参加しています。本部サイトも同県職員研修会に講師を派遣するなど、

一層の地域社会への協力を行ってまいりました。また、多様化するギフトラッピングのご要望に対応する一方、簡易包装に関してもお客さまのご理解を得る活動を継続し、環境活動を推進してまいります。

## 従業員の意識向上と 適正な情報開示を推進

企業の社会的役割責任が問われているなか、それを果たすうえで最も重要なポイントは、従業員の「社会の一員としての自覚」意識と、社会とのコミュニケーションの接点となる情報開示だと考えています。

私どもは、環境マネジメントシステムを単なる環境活動のための管理手法とするだけでなく、一人ひとりの従業員が、社会的視点から自らの行動を見直す重要な仕組みと位置づけています。環境方針に沿った環境活動を継続的にを行い、コンプライアンス(法令遵守)を前提としたリスクマネジメントを徹底することによって、西武百貨店に働く従業員の社会的責任意識は確実に高まっております。また、環境マネジメントシステムの運用に欠かせない「PLAN - DO - CHECK - ACTION」という効果的な管理手法を、日常の仕事の仕方の改革に取り入れることで、結果として企業の環境負荷を総合的に軽減し、企業の活力を高めるパワーとなっています。

情報開示に関しても、この報告書をはじめ積極的な情報提供に務めてまいります。数々のステークホルダーの皆さまから率直なご意見・ご批判を賜り、地域社会にとってなくてはならない企業として「次世代に続く豊かなくらしづくり」に邁進していく所存です。

今後とも皆さまの一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

## 地域への貢献を第一に 資源循環システムから 生まれたさくらんぼ

全店舗でISO14001規格にもとづく環境マネジメントシステムを稼働させて5年余り。私たちは社会的役割の一端を担い、地域に貢献する企業としての自覚と責任を常に感じ、環境活動を行ってきました。そうしたなかでの小さな取り組みの一つを紹介します。店内で生じる生ゴミをコンポスト(堆肥)に再生し、それを肥料にした農産物を店頭で販売するという資源循環システムです。本年6月に本金西武(秋田市)で作られたコンポストは、みずみずしいさくらんぼ(佐藤錦)に結実し店頭で販売されました。



さくらんぼ(佐藤錦)は、生産農家の「ながいわ農園」(秋田県平鹿郡増田町)のみなさんの手で、愛情たっぷりに育てられました



# 新たな中期計画に向けて <2004～2006年度>

2004年度は、新たな中期(3カ年)計画のスタート年度にあたります。  
地球温暖化防止という緊急かつ大きな課題を見据え、真摯に中期計画を策定しました。

## 中期計画の基本的な考え方

中期計画は、右表にある「6つの柱と11の取り組み」を基本的な枠組みとして、目的・目標、活動内容がつけられています。

いちばん重視した環境目的は「地球温暖化」対策です



「地球温暖化」は、地球上のあらゆる人の生活に深刻な影響を及ぼす問題です。すべての企業が自主的に温暖化防止に取り組む必要があるとの認識のもと、第1の環境目的として「温暖化対策」を柱立てしました。

温室効果ガスの排出を減らす努力を続けます



百貨店という業種の特性上、温室効果ガスの直接影響がつかみづらいのは事実です。しかし、身近なところから、温室効果ガスを抑制する活動

プログラムを1つでも増やし、従業員の活動意欲に応えていきたいと考えています。

環境負荷を低減する取り組みを継続します



循環型社会では、企業は環境保全と持続可能な経済発展を両立する必要があります。廃棄物削減やリサイクルの推進、エコ包装の普及など、環境負荷を減らす活動を、

これからも間断なく継続していきます。

「複合商業施設」の運営・管理を環境視点で改善します



西武百貨店がめざしているのは、リテール事業とテナント事業を組み合わせた魅力的な「複合商業施設」です。従って自社の従業員の活動だけでなく、テナント各社と協働で施設全体の運営・管理に環境への配慮を織り込み、改善

を図っていききたいと考えます。

## 中期3カ年の基本的な方向性

2004年度

複合商業施設としての環境活動のあり方を構築

2005年度

ISO14001更新審査を背景として活動の基盤を強化

2006年度

環境・社会貢献活動をグループの活動として拡大

## 環境方針

### [ 基本理念 ]

西武百貨店は、環境・社会・経済活動を通じ、お客さまや地域・社会と共に「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組めます。

### [ 行動指針 ]

1. 小売業として自社の事業活動に加え、お取引先やお客さまへの環境影響を少なくするよう努めます。
2. ①環境に配慮した品揃えと売りがたの改善  
②廃棄物の削減とリサイクルの推進  
③物流の効率化や省エネルギーによる温暖化防止  
④地域での社会貢献活動の推進  
を重点に仕事の仕組みや手法を見直し、継続的に改善を進めます。
3. 社員一人ひとりが環境や社会問題に自発的に取り組むように教育と啓発を行い、快適な環境の提供を通じてお客さまへのサービス向上・社会への貢献に誇りをもつ企業風土を築きます。
4. 法規制の遵守はもとより、挑戦的な自主基準をつくり、目標に対する検証を行い、常に活動の向上を心がけます。

この環境方針は全社員に周知させるとともに、社外にも公開します。

制定：1998年9月1日

改訂：2003年5月28日

## 中期活動目標

6つの柱	11の取り組み	指標	2004年度 目標 <sup>2</sup>	主な施策	2005年度 目標	2006年度 目標
1 温暖化対策	①電力使用量の削減	電力使用量原単位 <sup>1</sup>	前年比5.1% 増加 <sup>3</sup>	空調運転の効率化 計画的な時間外送電	前年比1.0% 削減	前年比1.0% 削減
	②車両による環境負荷 低減	社用車の低公害車率	62.2%	リース満了の車両をすべて低公害車に 切り替え	98.8%	100%
	③重油ボイラーの適正 管理		管理基準にもとづいた運転と管理を継続		前年継続	前年継続
	④温室効果ガス排出 抑制に向けた準備		各サイトの排出量を把握するしくみづくりと、排出抑制の プログラム検討		前年継続	前年継続
2 循環型社会の 推進	⑤廃棄物の削減	実廃棄量 (廃棄物総量からリサイクル 分除く)	前年比 2.7%を削減	生ごみの水切り徹底 社員食堂の食べ残し抑制	前年維持	前年維持
	⑥リサイクルの向上	リサイクル率	49.3%	リサイクル可能アイテムの 分別徹底	前年維持	前年維持
3 省資源	⑦紙類使用量の削減	コピー用紙	前年比 5.1%削減	減算式コピーカード導入による 管理徹底 課別用紙配布管理の実施	前年比1.6% 削減	前年比1.6% 削減
		包装紙・手提袋	前年比 4.6%削減	簡易包装マニュアルにもとづき 簡易包装おすすめてーク徹底	前年比1.6% 削減	前年比1.6% 削減
	⑧水資源使用量の削減	下水道使用量 原単位 <sup>1</sup>	前年比 3.3%増加 <sup>3</sup>	食品厨房節水の徹底 擬音装置使用によるトイレ不要流水の抑制	前年比1.0% 削減	前年比1.0% 削減
4 環境商品の 拡大	⑨環境に配慮した商品 提案の推進	西武百貨店環境 商品選定	10品目 新規選定	環境商品選定手順の遵守 各環境管理委員会による環境商品 提案	10品目 新規選定	10品目 新規選定
		環境商材売上	50億円	環境に配慮した商品の開発・販売	50億円	50億円
		エコバック売上	671.1万円	係長による売場品揃え点検	671.1万円	671.1万円
5 リスクマネジ メント	⑩遵法とリスクマネジ メントの強化	フロン管理		・故障時、改装時に特定フロン使用機器を入れ替える ・フロン使用機器の廃棄にあたっては、適正なフロン引渡し を実施する ・業務用冷凍冷蔵機器の日常温度管理を徹底する	前年継続	前年継続
		PCB管理		・保管、管理の徹底 ・行政処理計画の進行状況を把握 (PCB廃棄物保管店舗:池袋店・渋谷店・札幌店・静岡店・ 沼津店)	前年継続	前年継続
		テナント管理 (環境教育)		・テナント従業員への環境教育・指導の徹底 ・新規出店テナントの環境対応状況点検	前年継続	前年継続
6 社会貢献	⑪地域社会との共生	店舗外周清掃	月1回以上 実施	定例清掃の実施	月1回以上 実施	月1回以上 実施
		地域コミュニケーション	半期1回以上 実施	地域合同清掃への参加 地域環境イベントへの出席 市民環境講座での講演	半期1回以上 実施	半期1回以上 実施

1:電力使用量および下水道使用量原単位は、(使用量÷(営業面積×営業時間))により算出しています。

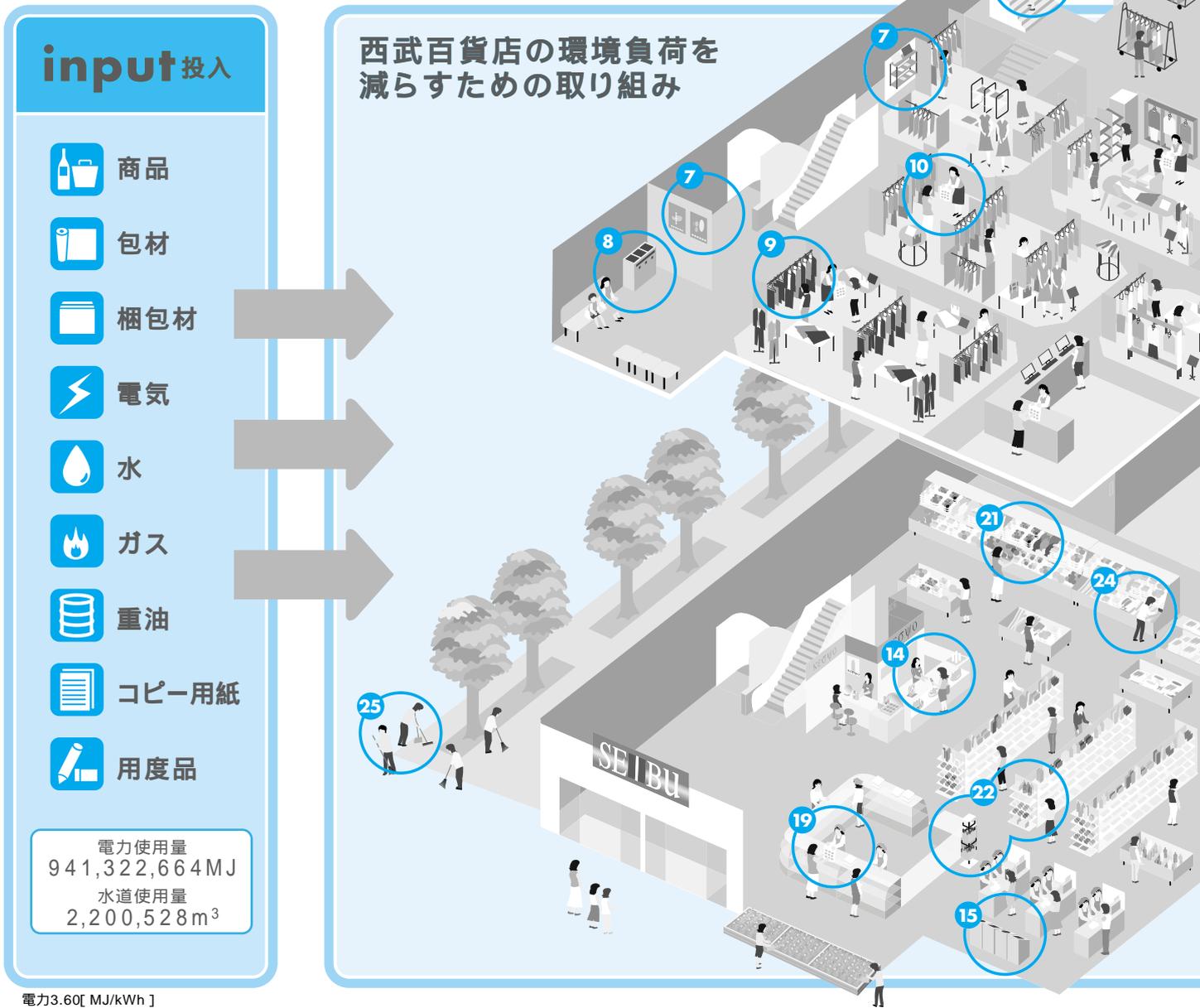
2:2003年8月に4店舗(函館店・ams仙台西武・川崎店・豊橋店)閉鎖したことを勘案した目標設定です。

3:前年比1.0%削減値に前年与件(冷夏による使用量の自然減)を加味したことにより、目標値がプラスに。また、2003年8月に高効率店舗(函館店・ams仙台西武・川崎店・豊橋店)の閉鎖および2003年9月に東戸塚店の管理範囲が拡大(株式会社ミレニアム企画清算により専門店街部分を管理範囲に追加)したことの影響があります。



# 事業活動による環境への影響と環境保全

百貨店の営業には資源やエネルギーの消費とともにごみや排気などの排出がともないます。こうした環境への負荷を減らすために、日々、さまざまな環境活動を行っています。



電力3.60[ MJ/kWh ]

## 電力使用量の削減

1. 2up3down運動.....従業員は上りは2階分、下りは3階分まで、エレベーターを使わずに階段を利用します。
2. こまめな消灯.....蛍光灯を個別スイッチにし、個々に管理責任者を決めて消灯を徹底しています。
3. 外気冷房システム.....池袋店などでは外気を店内に取り入れる仕組みを利用し、冷房のための電気を節減しています。

## 車両による環境負荷低減

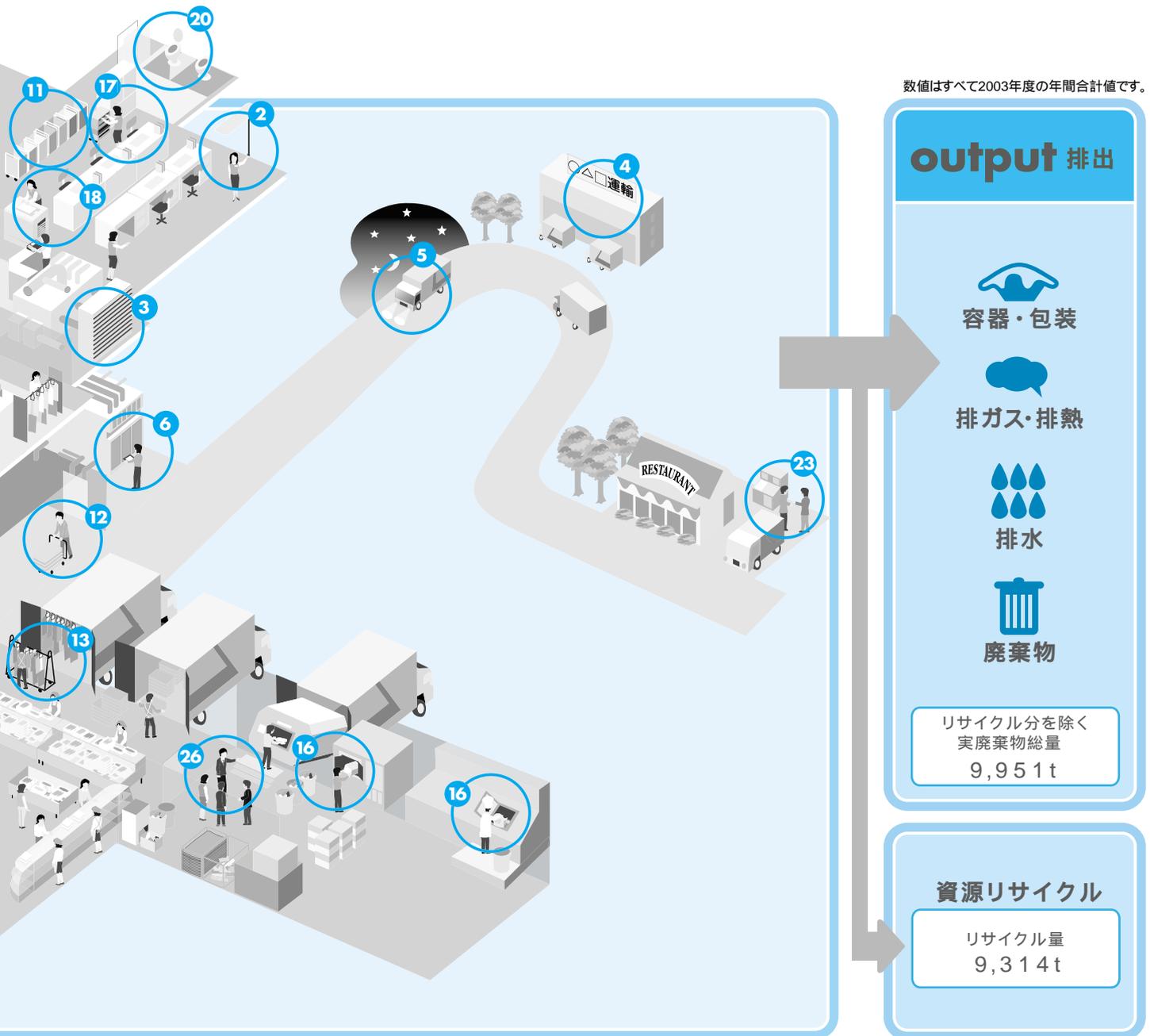
4. 納品代行システム.....メーカー・問屋からの納品商品を納品代行会社の倉庫に一括集荷し、納品便の効率化で店舗への出入り車両数を抑制。大気汚染を抑制しています。
5. 営業時間外納品.....夜間や早朝に納品を行い、交通渋滞による大気汚染・騒音発生を抑制しています。

## 重油ボイラーの適正管理

6. ボイラーのチェック.....ボイラーの安全稼働を図るため、使用基準を明確化し操作者の定期訓練を実施しています。

## 廃棄物の削減とリサイクルの向上

7. 再生資材を使用した売場ツール.....プライスカード入れやポスターなどには、再生PETや再生紙などの再生資材を使っています。
8. お客さま用分別ごみ箱.....「新聞・雑誌」「カン・びん・ペットボトル」「その他」の3分別にご協力いただいております。
9. 百貨店統一ハンガー.....百貨店やアパレルメーカーの間で統一仕様のハンガーを繰り返し使います。
10. エコ素材の制服.....社員バッジ、社員証、女性社員の制服の素材には再生PETを使用しています。
11. 社員用分別ごみ箱.....「ペットボトル」「びん」「カン」「ビニール・プラスチック」「紙」「ダンボール」「その他」の7分別。
12. リターナブルコンテナ納品.....納品が済んだら折りたたんでまたメーカーへ。繰り返し使用し、ダンボールの消費を減らしています。
13. ハンガー納品.....メーカーから売場までハンガーにつるした形で輸送。ダンボールやテープを使いません。
14. 化粧品びんのリサイクル.....資生堂と協力して行っているあきび



んりサイクル。店頭にお持ちいただいたびんは、ガラスびんの原料に再利用されます。

**15.** 容器回収……一部の店舗では食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの回収ボックスを設置しています。

**16.** エコステーション……店舗で発生したごみを分別・保管し、各種リサイクル機器で中間処理も行う施設です(池袋店・東戸塚店・岡崎店・本金西武)。

#### 紙類使用量の削減

**17.** リサイクルボックス……片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別してリサイクルしています。

**18.** コピー使用量の管理……両面コピーを原則とし、部署ごとに枚数も制限。用紙は古紙混入率70%です。

**19.** エコ包装……お客さまのご希望をお聞きしながらエコ包装をすすめる、不要な包装紙や紙製手提袋の使用を控えています。

#### 水資源使用量の削減

**20.** 洗面所の節水……水道に取り付けた節水コマや女性用トイレに設置した擬音装置で水使用を節減しています。

#### 環境に配慮した商品提案の推進

**21.** 資源循環野菜の販売……生ごみをコンポスト化して近隣農家に無償提供し、そのコンポストで栽培された野菜を青果売場で販売しています(池袋店・所沢店・本金西武)。

**22.** 環境に配慮した商品の開発・販売……有機素材食品ギフトの開発や、おしゃれなエコバック販売によるマイバッグ運動の推進などに取り組んでいます。

**23.** 法人外部部の環境ビジネス……環境に配慮した素材や生産方法によるSPグッズやユニフォーム、環境機器などを販売しています。

#### 遵法とリスクマネジメントの強化

**24.** フロン使用機器のチェック……冷凍冷蔵ショーケースの温度管理を徹底し、フロン漏洩の防止・安全稼働に努めています。

#### 地域社会との共生

**25.** 外周清掃……社員たちの手で定期的に周辺地域の清掃を行います。

**26.** 店内エコ見学会……地域の方々が生近で学べる環境教育の場として、店内の環境商品や施設をご案内しています。



# 環境マネジメントのしくみと運用状況

着実に、持続的に活動していくために、国際規格ISO14001にもとづいた環境マネジメントシステムを導入しています。

## 西武百貨店の環境マネジメントシステム

国際規格ISO14001にもとづき、PLAN(目標・計画) DOX(実施と運用) CHECK(実施結果の監視と測定) ACTION(是正処置、経営層による見直し)のサイクルに沿った、持続的・発展的な環境マネジメントを行っています。



JQA-EM0401



### ISO14001登録状況

登録番号: JQA EM0401

審査機関: 財団法人日本品質保証機構

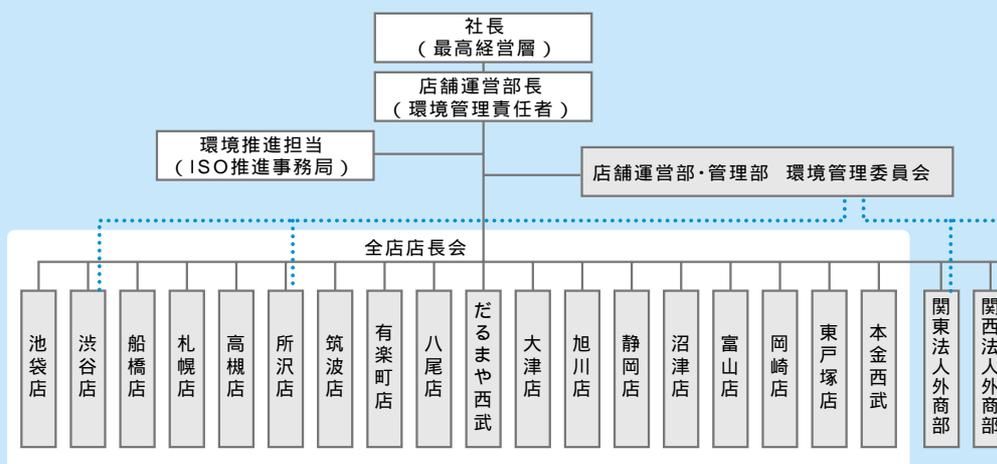
登録範囲: 株式会社西武百貨店 全店・全事業所  
株式会社ミレニアムリテイリング 商品本部・テナント本部・総務本部

登録日: 1999年4月9日

次期更新: 2005年4月9日

## 環境マネジメントのための組織体制

(株)西武百貨店



(株)ミレニアムリテイリング

環境マネジメントシステムは、最高経営層である社長のもと、店舗運営部長を環境管理責任者として全23サイトで構成されています。サイトは西武百貨店18店舗、2事業所(店舗運営部・管理部、法人外商部)、ならびにミレニアムリテイリングの3本部(商品本部、テナント本部、総務本部)です。

ミレニアムリテイリングの3本部は、西武百貨店の事業活動に不可欠な部門として拡大審査を受審し、2004年6月18日に認定を受けてISO14001の登録範囲に統合されました。

各サイトは店長や部門長を責任者として、個々にPDCAサイクルにもとづく活動を行い、その活動が西武百貨店全体の大きなPDCAサイクルとして統括されています。活動を実質的に統括し、各サイトの目標設定や継続的な改善などを担っているのは、「店舗運営部・管理部 環境管理委員会」です。環境管理責任者が委員長を務め、ミレニアムリテイリング3本部、法人外商部、代表店舗(2店)と密に連携を図りながらシステムの運用を進めています。また、店舗サイトの意思統一と相互のコミュニケーションは、全店店長会を通じて行われています。

## 「環境マネジメントシステム」にもとづく1年間の主な活動

	3月	4月	5月	6月	7月	8月
<b>PLAN</b> (計画)	環境目的・目標の策定 (中期3カ年・今年度)					
<b>DO</b> (実施・運用)	環境マネジメント体制の見直しと環境管理委員会 上期メンバー任命 環境マネジメントシステム文書の定期見直し	自主基準にもとづく排出水の状態点検	廃棄物処理ルート実査 特定業務従事者への訓練 <年2回> (PCB、フロン、廃棄物、自家発電機、ボイラー等) エネルギー管理指定工場中長期計画書・実績報告書提出	PCB廃棄物保管状況等の届出 <池袋・渋谷・札幌・静岡・沼津> 緊急事態発生時の対応手順テスト		煤煙測定
<b>CHECK</b> (点検・測定)	第4四半期(12~2月)および年間目標達成状況報告 ISO14001審査	法規制等遵守状況の点検 <年2回>		第1四半期(3~5月)目標達成状況報告	サイト別自主監査 <年2回>	
<b>ACTION</b> (是正・経営層による見直し)	全社環境マネジメントシステムの見直し(環境方針、環境目的・目標など)					

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
	環境目的・目標、マネジメントプログラムの見直し<半期>		環境側面の定期見直し				PLAN
	環境マネジメント体制の見直しと環境管理委員会 下期メンバー任命	法定資格保有者の確認(電気主任技術者、建築物環境衛生管理技術者など) 特定業務従事者への訓練 <年2回> (PCB、フロン、廃棄物、自家発電機、ボイラー等)	環境マネジメントシステム文書の最新版配布・管理状況の確認		層別環境教育(6ラーニング、全社員環境アンケート)	煤煙測定	DO
	第2四半期(6~8月)目標達成状況報告	法規制等遵守状況の点検 <年2回>	サイト別自主監査 <年2回> 内部環境監査員研修	第3四半期(9~11月)目標達成状況報告	内部環境監査(<2月)		CHECK
						環境マネジメントシステムの見直し(各サイト)	ACTION

月ごとに定期実施

- PLAN 法規制・条例等の制定、改正確認
- DO 環境管理委員会の開催、活動状況の報告
- DO 入店時環境教育、環境デー教育
- DO 環境目標達成状況の確認

必要な場合に随時実施

- PLAN 環境目的・目標の見直し
- PLAN 環境側面の見直し
- DO 社外・社内の環境情報の通知と対応
- DO 環境教育・法定資格保有者の確認
- CHECK 発生した不適合の是正および予防措置

## 緊急事態の想定と実効力のある対策づくり

多くのお客さまをお迎えする小売業の責任として、西武百貨店では、環境マネジメントシステムの「CHECK」項目を重視し、事業活動にともなうリスクマネジメントに努めています。特に「重油・ガス」「PCB」「フロン」「煤煙発生施設」の管理や「水質汚濁」といった環境リスクについては、緊急事態を想定した「対応手順書」を作成し、毎年6月に有効性の確認テストを行って「手順」「備品」「対応人数」「想定時間」などが適切であるかをチェックしています。



2003年6月29日に池袋店で行われた緊急対応訓練の様子。自家発電機からの重油漏洩を想定した対応手順を実行しています





# 環境教育と意識づくり

環境マネジメントシステムを支えているのは、従業員一人ひとりの環境意識と実践です。定期的な環境教育や訓練、現場での実践をくり返し行い、環境への意識を高めています。

## 新規入店者研修

西武百貨店で勤務するすべての従業員を対象に、「西武百貨店の環境への取り組み」を入店時研修の必須項目として実施しています。2003年度は17,000人以上のパートタイマー社員・派遣社員が受講しました。

## 環境eラーニング

毎年1回「環境活動の担い手としての「自覚」を高めるために、社員区分や役割に応じた教育を実施しています。

2002年度に本社員を対象に導入した環境eラーニングを、2003年度はパートタイマー社員・派遣社員・業務委託先社員にも「簡易版eラーニング」として拡大し、1月8日～2月7日を学習期間として実施しました。とくに環境教育の牽引役である本社員は、学習履歴が把握できるので効率よく学習できるようになりました。

## 内部環境監査員研修

内部環境監査員の資格は、年に1回実施される「養成研修」に参加し、修了研修に合格した人のみが取得できます。また一度、内部環境監査員資格を取得しても、スキルアップ研修を受講し監査技術の維持・向上を行わないと、その年度の内部環境監査を行うことができません。

2003年度は4人の主任環境監査員と新任28人を含む34人が、内部環境監査員に任命され監査を実施しました。

## 特定教育・訓練

環境に著しい影響を与える可能性のある業務として「PCB・フロン等環境有害物質を扱う従業員」と「廃棄物の処理を行う従業員」に対して、年2回の「訓練」を行っています。

また、著しい環境影響の原因となりうる業務として「自家発電設備・ボイラーの運転を行う従業員」を対象とする「教育・訓練」も行っています。社員教育担当者と施設管理担当により、公的資格の保有だけではなく、西武百貨店の特定教育・訓練の受講を前提とした現場に即した「能力」認定を行うしくみになっています。



eラーニングで各店舗の環境教育をスムーズに



「販売基本ルール」にもとづき、すべての従業員が「西武百貨店の環境への取り組み」について研修で学びます



内部環境監査員の養成は、環境活動のセルフチェックのために欠かせない教育活動です



特定教育では、取り扱う業務の環境影響から関連法規、運用管理の手順や緊急事態への対応まで、実践をまじえた学習と訓練を行います

## 主な環境教育カリキュラム(特定教育を除く)

教育・研修テーマ	対象者	実施頻度	研修のポイント ほか
1 環境方針の徹底	全従業員	随時	環境方針の理解
2 環境デー全社テーマ	全従業員	週1回	環境マネジメントプログラムを実行するための基本認識を中心とする
3 層別環境教育	①本社員(環境管理委員会メンバー) ②本社員 ③パートタイマー社員 ④派遣社員 ⑤業務委託先社員	年1回	「環境教育・研修規程(E-4201)」にもとづき、次の事項について適切な認識を持つ (1)環境方針、環境マネジメントシステムの規程を遵守する事の重要性 (2)当社の事業活動に関する著しい環境側面と環境への影響 (3)従業員一人ひとりの取り組みから生じる環境負荷の改善効果 (4)環境マネジメントシステムに関する役割と責任 (5)運用管理規程などから逸脱した場合の環境への影響
4 新任事務局研修	環境管理委員会新任事務局	半期1回	環境マネジメントシステムの運用手順
5 内部環境監査員養成研修	環境管理委員会新任事務局	年1回	内部環境監査の基本手順 内部環境監査員としての知識習得
6 内部環境監査員スキルアップ研修	内部環境監査員	年1回	内部環境監査の課題と改善計画 最新情報など
7 新規入店者研修	新規入店者	随時	受入研修時に「販売基本ルール」に基づく研修を実施

西武百貨店環境マネジメントマニュアルの中で、環境教育に関する規程です。

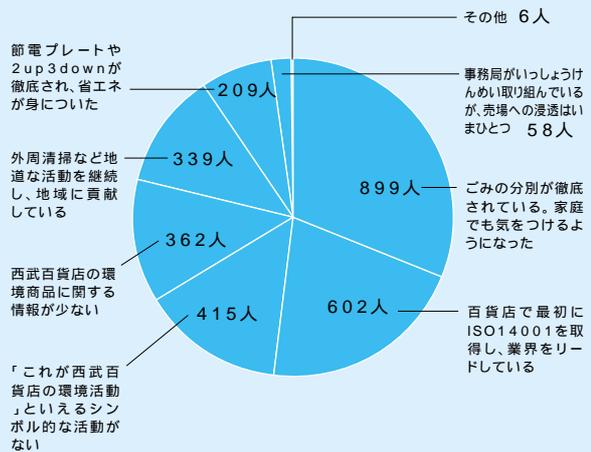
## 社員の環境への思いが、行動に表れてきました

—全社員アンケートから知る社員の環境意識—

環境マネジメントシステムを導入してから意識調査も6回目を迎えました。活動が定着した一方で、ISO認証を取得したときの全社一丸となった熱意が少し冷め、事務局中心の活動になってしまっているのではないかと、という心配も多少ありました。しかし、そんな心配をよそに、50%以上の本社員から「ごみの分別が徹底されており、家庭でも気をつけるようになった」、「百貨店で最初にISO14001を取得し、業界をリードしている」との答えが返ってきました。自由記述欄にも多くの意見が記入され、意識の高まりが感じられました。

【実施期間】2004年1月8日～2月7日  
【対象】本社員 2890人  
【方法】6～7項目の選択肢から1項目をえらぶ選択式3問および自由記述。

### Q 西武百貨店の環境・社会貢献活動についてどう思いますか？



## 社員たちの声

### これからもがんばって続けていきます

多くの方が働く西武百貨店で環境に配慮する活動を行うことは、それぞれの家庭での意識改革につながり、またお客さまへの浸透も考えれば、数え切れないほどの人々に影響を与える非常に意義深いものだと思います。(池袋店:販売部)

お客さまの理解を促進するためには分かりやすい展開が必須です。社会状況を考えれば、ご自宅でお使いなどの自家消費商品領域で、(一部のブランドは無理でしょうが)徹底した簡易包装をお取引先を含めて実施すべきと考えます。(店舗運営部)

ごみの分別については、私自身はもとより家族全員で取り組んでいます。今後の環境について考えた場合、やはり簡単なことでありますが、一人ひとりがしっかりと取り組んでいかなくてはならないことだと思います。(渋谷店:顧客サービス担当)

接客において、簡易包装の声かけは日常会話となり、お客さまから先に「簡単でいいわ」とおっしゃっていただくケースが増えました。今後も企業としても活動告知を積極的に行い地域と共に協力して活動していきたいです。(八尾店:顧客サービス担当)

環境のことを考えながらも、過剰なラッピングはサービスの一部だと思っていました。しかし、ラッピングを簡易化することは、地球にもお客さまにも意味のあることだと思います。(池袋店:販売部)

会社だから、地域でのルールだから、というよりも、自然と共存していく人間の当たり前の行動として、一人ひとりが意識を持って取り組まなければならないことと改めて感じます。(池袋店:販売部)

### もっと改善していきましょう

過度な包装をしなくても素敵なおギフトパッケージになることをお客さまに提案できるように、創意工夫が必要だと思います。(静岡店:販売部)

分別ごみ箱のなかに、燃えないごみと一緒にペットボトルが捨ててあったことがあり、掃除当番の人が分別していました。「誰かがやってくれる」と思っている人がいると、せっかくの実績が台無しになってしまうような気がします。(旭川店:販売部)

現在のエコバックは色も形態もヴァリエーションに富んでいますが、西武らしさが足りないような気がします。紙袋や包装紙が百貨店の顔であり広告塔であるように、西武のエコロジー活動の顔になるようなものにしていく必要がありますね。(岡崎店:販売部)

当社の環境活動は、まだまだ消費者の方々には認知されていないと思います。告知方法を考え、もっと積極的に情報提供を行わなければ、また、地域に密着した活動には店舗によって差があり、標準化できることはもっとしていくべきだと思います。(船橋店:販売部)

立上り時期は節電や2up3downを積極的に推進していましたが、最近は1～2階でも平気な顔してエレベーターに乗ってくる社員を見かけます。今後、そうした社員に対し、その場で再度2up3downの取り組みを教えるよう心がけたいです。(労働組合)

受講内容にもありましたが、ボランティア休暇などはぜひ導入すべきです。また、ボランティア休暇をとった場合、周囲のフォロー体制も確立すべきだと思います。休暇制度があっても、実質的にとれないようでは、何の意味もなさなく、自己満足になってしまうからです。(所沢店:販売部)



## 活動状況のチェックと改善

環境マネジメントシステムの運用状況をセルフチェックする内部環境監査や、ISO規格への適合性を確保するための外部審査登録機関による審査を実施しています。

### 内部環境監査

ISO登録全サイトを対象に、社内の内部環境監査員による内部環境監査を年に1回行っています。環境マネジメントシステムの改善を主目的とした監査であるため、外部審査機関による想定評価より判定基準を厳しく設定しております。

2004年2月11日から行った「2003年度内部環境監査」では、各サイトの8割以上の窓口担当者が2003年度下期に着任し、業務の習熟度が低かったことが影響し、定例業務に滞りが見られました。監査結果をふまえ、新任担当者への教育を再徹底するなどの改善を図っております。

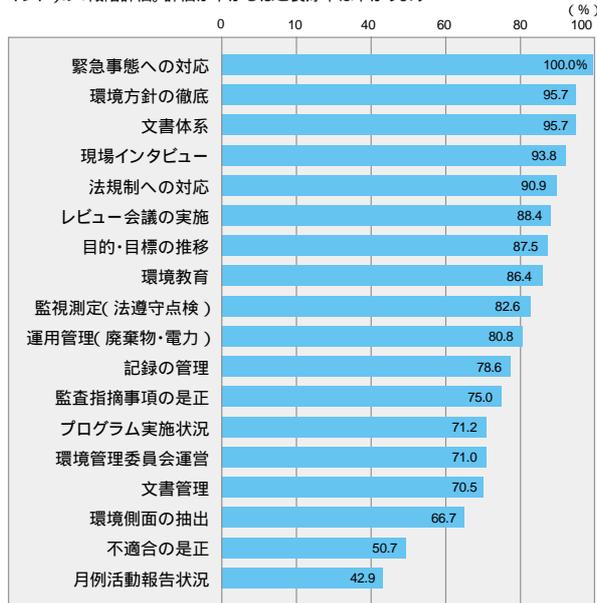


八尾店 内部環境監査  
(2004年2月13日)

監査実施日: 2004年2月11日～3月12日  
監査チーム: 店舗運営部 環境推進担当を事務局とし  
内部環境監査員 34人が監査しました

### 調査項目別 良好率

良好率=設問数/評価点。評価点は「良好」(1ポイント)～「重大な不適合」(4ポイント)の4段階評価。評価が下がるほど良好率は下がります



監査は18項目75設問で行われました。不備が多かったのが「月例活動報告状況」42.9%と「不適合の是正」50.7%。必要書類の作成・提出の遅れに起因するもので、「重大な不適合」として早急に改善を図りました。

### 環境法規制などに対する遵守状況

法律や地域条例、協定などについては法律改正などの動きにも注意をはらいながら遵守状況のチェックを年間2回(4月・10月)、200項目以上にわたるチェックを行っています。

2003年度に確認された課題としては、特別管理産業廃棄物管理責任者やエネルギー管理員などの資格保持者の予備人員確保があげられます。人事異動時のフォローや資格取得のサポート、業務委託先との連携など、サイト単位では解決しきれない問題があるため、全社的解決策を検討しています。

また、排水については、2004年5月25日から6月8日に、自主基準にもとづく全店検査を行った結果、11店舗でn Hex値(水中の油分を表す指標)に基準超過が見られたため、グリストラップの清掃手順の見直しや吸油マット設置などの対策をとりました。



グリストラップの清掃

#### 排水自主基準

- ① pH値:5を超え9未満、② BOD:600mg/l未満(5日間に)、③ SS:600mg/l未満、④ n Hex(動植物油):30mg/l以下

水質の指標について pH(水素イオン濃度):酸性・中性・アルカリ性を知る指標。天然の水のpHは通常7(中性)付近。BOD(生物化学的酸素要求量):水中の有機物が好気性微生物によって分解されるときに必要な酸素量。数値が大きいほど有機物汚染の度合いが高い。SS(浮遊物質):水にとけずに浮遊または懸濁している粒子径2mm以下の不溶性物質の量 n-Hex(ノルマルヘキサン抽出物含有量):水中の油分を表す指標

## 第三者機関によるISO14001審査

2004年度はISO14001規格との適合性をチェックする「定期審査」が審査登録機関によって行われました(更新審査は2005年度)。

審査の結果、ISO14001規格にもとづく環境マネ

ジメントシステムが維持管理されていることが確認され、登録範囲の拡大(ミレニアムリテイリング 商品本部、テナント本部、総務本部)についても適切と判断されました。

### 定期審査実施状況

- 【審査実施日】2004年5月18日～5月21日
- 【審査機関】財団法人日本品質保証機構  
主任審査員:上山 太一郎様  
審査員:白川 幸夫様、齊藤 俊彦様
- 【適用規格】ISO14001:1996
- 【審査の種類】ISO14001定期審査および拡大審査
- 【審査工数】審査工数9人・日、移動工数2人・日  
(拡大審査含む)
- 【審査部署】トップマネジメント(社長)、環境管理責任者、16サイト(11店舗・2部門・ミレニアムリテイリング3本部)  
  
〔定期審査〕社長、環境管理責任者・環境推進担当/店舗運営部、法人外商部、池袋店、渋谷店、有楽町店、所沢店、東戸塚店、静岡店、沼津店、岡崎店、大津店、札幌店、旭川店  
〔拡大審査〕株式会社ミレニアムリテイリング商品本部・テナント本部・総務本部

#### 【審査結果】

改善指摘事項カテゴリーA  
システム要求項目に関する手順の構築が完全に欠落している場合等。改善されるまで認証一時停止

0件

改善指摘事項カテゴリーB  
システムの一部に若干の欠陥がある、あるいは一部実施が不十分。審査機関に改善計画書を提出する義務がある

0件

改善の機会  
改善指摘事項ではないが、審査員の判断力や経験によると、改善の余地があると見受けられたもの

20件

上期中(2004年8月末)に見直し・改善をすべて完了し、下期(2004年9月)から改善後のシステムにもとづいた運用を行っています。



トップインタビュー(2004年5月18日)



東戸塚店(2004年5月20日)



岡崎店(2004年5月20日)

#### 「改善の機会」の内訳

要求事項	件数
環境側面	2件
体制および責任	2件
文書管理	2件
緊急事態への準備および対応	2件
記録	1件
環境マネジメントプログラム	4件
訓練、自覚および能力	1件
運用管理	3件
監視および測定	2件
環境マネジメントシステム監査	1件



# 2001～2003年度の環境目標と活動結果

2003年度は環境目標17項目のうち13項目で目標を達成。  
未達成項目を中心に達成阻害要因を分析して、本年度からの目標達成に生かしていきます。

## 未達成項目の原因と対応

【コピー用紙納品量】 事務所などで使用する一般コピー用紙には、「両面コピー」「片面使用済み用紙の再利用」「部門別使用量管理の徹底」などにより、大きな目標差は発生しなかったものの、ギフト伝票などの営業に利用するコピー用紙は、見込みが甘く、目標を超過してしまいました。前年の使用状況と営業与件の変更点を確認したうえで

目標設定を行い、精度の高い目標管理を徹底します。

【包装紙・手提袋納品量】 ポリ手提袋を使用することで、薄紙などの中間包装材の使用を控える取り組みを継続していますが、売場によっては紙製手提袋の需要が増えたケースもあり、紙製手提袋の使用量が目標を超過してしまいました。一方、ポリ手提袋は紙製手提袋の使用で

環境目的・目標			2000年度	2001年度	
【6つの柱】	【10の取り組み】	[単位]	実績	実績	
《1》循環型社会の推進	廃棄物の削減(実廃棄量)	[t]	14,339	12,792	
	リサイクルの向上(リサイクル率)	[%]	39.1%	42.7%	
《2》省資源	紙類使用量の削減	コピー用紙納品量	[t]	175	165
		包装紙・手提袋納品量	[t]	409	415
		ポリ手提袋納品量	[t]	377	364
	水資源使用量の削減(下水道使用量原単位)	[ ㎥/(m <sup>2</sup> ・h) ]	1.018	1.018	
	下水道使用量	[ km <sup>3</sup> ]	2,670	2,600	
《3》温暖化対策	電力使用量の削減(電力使用量原単位)	[ Wh/(m <sup>2</sup> ・h) ]	111.94	116.67	
		[ MJ/(m <sup>2</sup> ・h) ]	0.40297	0.42000	
	電力使用量	[ MWh ]	291,907	298,091	
	[ MJ ]	1,050,864,613	1,073,126,509		
重油ボイラーの見直し		重油ボイラーからガスボイラーへの入れ替えを検討 管理標準に基づ			
車両による環境負荷低減	業務車両削減(1日当たり台数)[台]		2,812	2,680	
	社用車の低公害車導入拡大(保有率)	[ % ]	50.0%	33.3%	
《4》環境商品の拡大	環境に配慮した商品提案の推進	環境商材売上拡大	[ 億円 ]	42.4	46.3
		エコバック売上拡大	[ 千円 ]	-	13,842
《5》リスクマネジメント	リスクマネジメントの強化	防災訓練への参加年4回以上(参加率)	[ % ]	110.1%	113.1%
		フロン管理強化		故障時・改装時に特定フロン使用機器の入れ替えを実施 フロン使	
		PCB管理の徹底		保管・管理状況の確認と行政届出を実施( PCB廃棄物保管店舗:池袋店、	
《6》社会貢献	地域社会との共生	店舗外周清掃の実施	[ 回 ]	320	343
		地域コミュニケーションの実施	[ 回 ]	-	-

閉鎖店舗の実績値・目標値を含む。(宇都宮店、高知店・・・2002年12月 函館店、ams仙台西武、川崎店、豊橋店・・・2003年8月)  
原単位・・・各サイトの使用量合計/各サイトの(営業面積×営業時間)合計  
発熱量・・・電力3.60[MJ/kWh] エネルギー源別発熱量表の改訂について(2001年3月30日 資源エネルギー庁総合政策課)

需要が減少しました。コピー用紙同様、精度の高い目標管理を徹底していきます。

【社用車の低公害車導入率】 低公害車への移行は着実に進んでいるものの、低公害車導入率の高かった4店舗の閉鎖に伴い全体導入率が低下、目標を下回りました。今後はリース期間終了にあわせて随時、低公害車への車種変

更を進め、2006年度末までに100%の導入をめざします。

【エコバック売上】 店舗改装などともなう販売拠点の変更や、デザイン・機能・価格などの面で類似商品との競合が厳しくなってきたことから売上が伸びず目標を達成できませんでした。新型エコバックの開発・導入、扱い売場・専用什器の改善などを行い、販売拡大をめざします。

2002年度		2003年度		
実績	実績	目標	目標達成状況	2000年度比
11,938	9,951	10,522	◎ +5.4ポイント	69.4%
45.7%	48.3%	46.8%	◎ +3.4ポイント	123.7%
10,056	9,314	9,248	◎ +3.6ポイント	101.3%
166	109	107	× ▲1.2ポイント	62.0%
312	277	270	× ▲2.7ポイント	67.6%
334	276	286	◎ +3.6ポイント	73.1%
0.997	0.979	1.007	◎ +2.8ポイント	96.2%
2,457	2,201	2,266	◎ +2.8ポイント	82.4%
119.03 0.42851	116.00 0.41760	117.00 0.42121	◎ +0.9ポイント	103.6%
293,445 1,056,403,774	261,479 941,322,664	263,626 949,054,834		89.6%

いた運転と管理を実施 温室効果ガス排出抑制プログラムの1つとして具体的な投資計画を策定(2004年度～)

2,322	2,240	2,300	◎ +2.6ポイント	79.7%
47.2%	57.0%	62.5%	× ▲8.8ポイント	113.9%
49.6	51.2	50.0	◎ +2.3ポイント	120.5%
11,592	7,543	8,832	× ▲14.6ポイント	-
107.0%	114.2%	100.3%	◎ +13.8ポイント	103.7%

用機器廃棄時の適正なフロン引渡しを実施 冷凍・冷蔵ショーケース、冷凍・冷蔵庫の温度管理を徹底

渋谷店、札幌店、静岡店、沼津店) 行政処理計画の進行状況を確認 閉鎖店舗保管のPCB廃棄物を行政指導に基づいて適正に運搬(豊橋店 池袋店)

377	445	360	◎ +23.6ポイント	139.1%
85	112	87	◎ +28.7ポイント	-

…達成 ×…未達成

目標達成状況のポイントは、達成はプラス、未達成はマイナスで表記し、目標の達成度合いが高いものほど高ポイントになります。  
削減目標(100%-目標比)、拡大目標(目標比-100%)



# 環境負荷の少ない百貨店事業をめざして

池袋店だけでも毎日、数千人の従業員が働く巨大複合商業施設の百貨店。従業員一人ひとりのきめ細かい配慮が、環境負荷の少ない百貨店をつくりだしています。

## “環境意識”の高まりで大きな成果 電気を大切に使いCO<sub>2</sub>の排出を防いでいます

事務所や倉庫などの蛍光灯を個別のスイッチに替え、使用時以外はすべて消灯しているほか、(1)従業員はエレベーターの使用を控え、上り2階、下り3階以内は階段を利用する「2up3down運動」の励行(2)計画的な業務遂行で営業時間外送電の削減(3)照明機器の売場単位での点消灯 -- など、従業員一人ひとりが“環境意識”を高め、電力使用量の低減に努力しています。

また、店内照明を消費電力の少ない蛍光灯タイプに切り換えているほか、空調には気温に応じて外気を取り込むことのできる外気冷房システムを採用。池袋店では1998年より外気冷房システムの採用をすすめており、空調の電力使用量は採用前に比べほぼ9%削減されています。



蛍光灯の個別スイッチには、社員がデザインした節電プレートが付き、意識高揚に役立っています



2up3down運動



6月20日に全国で行われた「ライトダウン・2004ブラックイイルミネーション」(※)に西武百貨店全店も参加しました。ライトアップとライトダウンでこんなに違います  
\*環境省では6月20日の夜8時から10時までの2時間の間は「ライトダウン・2004 - ブラックイイルミネーション」として、「でんきを消して、スローな夜を」をテーマに市民や全国各地の夜景スポットやライトアップ・スポットに一斉に電気を消すことを呼びかけました。

## 温室効果ガス排出量を率先して逡減していきます

2004年度からの重点テーマである「地球温暖化」対策の一環として、今後導入が検討されている温室効果ガス排出量取引を経験すべく、環境省「温室効果ガス排出量取引試行事業」に参加し、池袋店をモデル店舗として温室効果ガス排出量の算定および排出枠の仮想取引・移転等の実務を体験しました。今後は、全サイトの排出量の把握と排出を抑制するプログラムの検討をしていくことで準備をすすめていきます。

閉鎖した川崎店、豊橋店、函館店、ams仙台西武の4店は2003年6月まで、本部ビルは2004年4月までの実績値・目標値を算入しています。(本部ビルはミニシアムリテイリンググループ発足に伴い2003年5月閉鎖。2003年6月より新たに店舗運営部・管理部サイトが発足)

2003年度冷夏による空調電力減少分を補正しているため、2003年度実績を超える2004年度目標を設定している場合があります。

東戸塚店はオーロラシティの専門店街であるオーロラモールが管理対象範囲となったため、2003年度実績を超える2004年度目標を設定しています。

店舗運営部・管理部は2003年度6月から活動を開始しているため、2003年度実績を超える2004年度目標を設定しています。

2003年度サイト別電力使用量と2004年度削減目標一覧 単位:kWh

サイト	2003年度		2004年度
	実績	目標達成状況(目標比)	目標
池袋店	58,554,720	(99.9%)	59,856,281
渋谷店	24,810,576	(98.2%)	25,050,209
有楽町店	6,309,821	× (100.9%)	6,311,679
船橋店	17,359,392	(98.2%)	18,128,932
所沢店	12,264,465	(99.2%)	12,443,755
筑波店	8,582,869	(98.2%)	8,497,040
川崎店	3,165,198	(99.1%)	2003年8月閉鎖
東戸塚店	11,626,449	(94.5%)	19,324,700
静岡店	8,013,313	(98.1%)	8,216,876
沼津店	4,023,829	(96.5%)	4,050,298
豊橋店	1,916,381	(98.8%)	2003年8月閉鎖
岡崎店	5,502,900	(96.2%)	5,447,871
高槻店	20,309,754	(99.6%)	18,758,000
八尾店	16,966,316	× (101.0%)	16,916,000
大津店	14,945,340	× (100.5%)	15,071,055
だるまや西武	8,934,996	(99.5%)	9,120,926
富山店	5,332,680	(98.1%)	5,279,353
札幌店	12,742,690	× (100.2%)	12,841,800
旭川店	9,656,100	(99.7%)	9,754,320
函館店	1,855,224	(97.8%)	2003年8月閉鎖
ams 仙台西武	2,138,557	(99.2%)	2003年8月閉鎖
本金西武	6,083,057	× (102.9%)	6,022,226
本部ビル	344,798	(100.0%)	2003年5月閉鎖
店舗運営部・管理部	39,093	(98.7%)	55,817
合計	261,478,518	(99.2%)	261,147,138

・・・達成 ×・・・未達成

## テナントお取引先との協力体制を築き、環境にやさしい複合商業施設をめざします

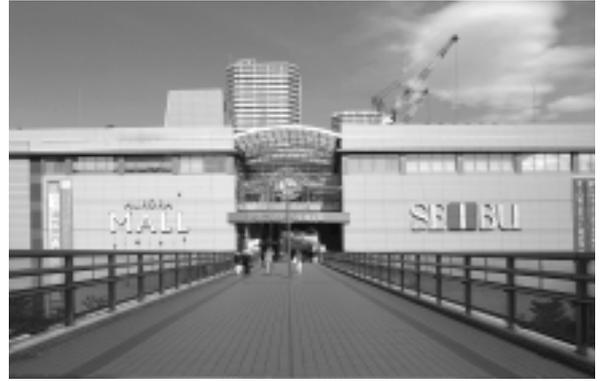
現在の店舗は、自社(百貨店)が運営する売場だけでなく、テナント契約にもとづく専門店などを導入した魅力的な複合商業施設となっています。

西武百貨店は、こうしたテナントお取引先と定期賃貸借契約を結ぶ際の営業規約に環境問題についても規定を設け、環境関連法規・条例、会社規程の遵守はもとより、環境保全活動に関する教育への参加と従業員への周知徹底を確認しています。また、月に1回開催しているテナント店長会や日常での現場指導、さらに毎月、従業員用に配信している「環境ニュース」にもテナントお取引先のためのテーマを設けて“環境意識”を向上させています。

日常管理・点検ポイント事例(テナント店舗用)

### 点検項目

- ・販売商品の容器包装表示(紙、プラなど)
- ・ごみの分別・減量
- ・グリストラップの清掃
- ・冷凍冷蔵庫の温度管理
- ・アレルギー表示
- ・分煙対応表示(主にレストラン)
- ・消灯の励行
- ・適正包装の推進
- ・空調設備・照明器具等の清掃
- ・家電リサイクルの案内表示  
など



複合商業施設「オーラシティ」は、百貨店と専門店街「オーラモール」で構成されています。



ゴミ貯留機(上)  
生ゴミ処理機(右)

## “環境にやさしいショッピング”を店舗がサポートしています

ひとつの商品を未永く使用したり、必要なモノを必要な量だけ購入することも、ごみの削減をはじめ、さまざまな面で地球環境への負荷を軽減することにつながります。西武百貨店では、店舗に靴やバッグ、宝飾品などの修理をするコーナーや衣料品のリフォームを承り、お客さまの“環境にやさしいお買い物”をサポートしています。また、食品売場を中心に量り売りを行う売場も、買い物の適量化に役立っています。

一方、お客さまのごみ排出量を削減する簡易包装に関しても、お客さまとともにeco包装を推進しています。



オーダーメイドワイシャツの修理



靴修理、時計ハンドの修理



ハンドバッグの修理



服の修理リフォーム



## “環境にやさしい生活”のニーズにお応えします

独自の選定基準による「環境商品」の開発のほか、エコロジー・ライフ、快適生活を実現する商品を提案。法人のお客さまのさまざまなニーズにも応えています。

### 「環境商品」の選定、品揃えにつとめ店頭でお客さまに告知しています

独自の「環境商品選定基準」を設定し、第三者機関が選定基準との適合性を検査したうえで、合格した商品のみを「環境商品」として認定、表示しています。現在、「環境商品」は164アイテム(2004年7月末現在)。約74

%を食品が占め、16%が子ども関連商品、10%がインテリア・生活雑貨等となっています。今後は年間10アイテムを目標に新規「環境商品」を拡大していきます。

#### 「西武百貨店・環境商品選定基準」

- ①原材料や生産工程が低負荷であるもの
- ②再生素材を使用しているもの
- ③再生可能な商品であるもの
- ④省資源・省エネ商品であるもの
- ⑤環境保全を促進するもの
- ⑥環境負荷に関する表示のあるもの
- ⑦環境保全に積極的な企業により製造された商品であるもの



店頭表示では選定理由を明確に表記しました

### 百貨店ならではの商品も「ゆっくり暮らす」ライフスタイルに合わせて

安心して食べることができ、素材の良さを存分に生かした食品を -- というお客さまのご要望に応えて、余計なものを一切加えず、伝統的な製法にもこだわった「食源探訪」をはじめ、エコロジーコンシャスなライフスタイル

傾向が先行しているニューヨークで、多くの人々の支持を得ている「テラヴェルデ」(イタリア語で“緑の大地”)などのギフト商品や、暑い夏を快適に過ごすための「吸汗速乾ワイシャツ」など環境に配慮した商品開発も進めています。



急がず、ごまかさず、食べることへの喜びを取り戻すために開発された「食源探訪」商品



オーガニックコットンを100%使用、タグやパッケージに再生紙や大豆インクを使い、自然にやさしい「テラヴェルデ・ギフトコレクション」



冷却素材で体温の上昇を抑制し、室内冷房を低く押さえることができます

### 近隣農家と資源循環型の仕組みをつくり安全でおいしい季節の味覚を食卓に

地域の廃棄物処理の負担を軽減するため、生ゴミをコンポスト化して近隣農家に提供し、生産された農産物を店頭で販売する資源循環型システムの導入を進めています。「安心して食べられ、おいしい」と、お客さまから高い評価を得ています。



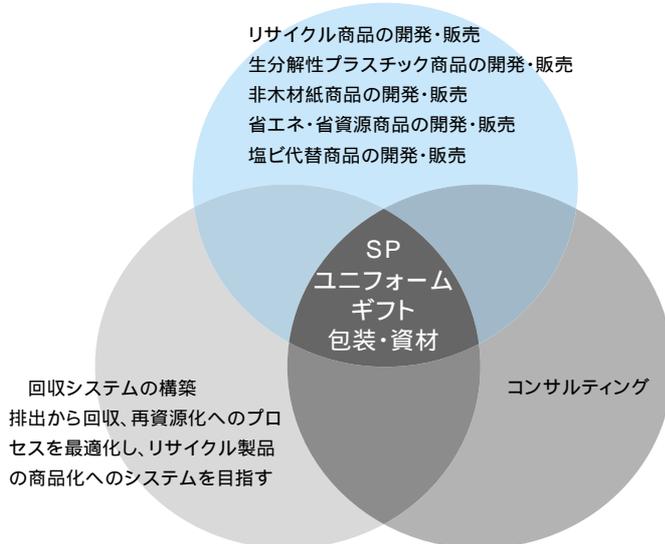
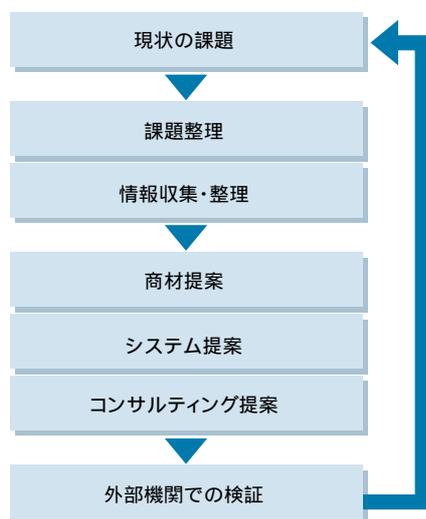
生ごみ処理機によるリサイクル肥料を使ってつくられた「天田さんの野菜」(池袋店・所沢店で販売)

# 法人のお客さまのニーズに応える 環境ビジネスにも積極的に取り組んでいます

## 企業・団体の環境課題をトータルで解決する「環境サポートシステム」

法人外商部ではリサイクル商品の開発・販売、環境関連商品の販売、資源回収システムの構築まで、企業・団体

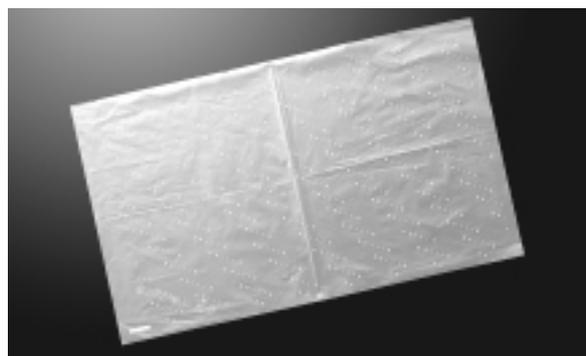
が直面しているさまざまな“環境課題”にトータルに対応し、コンサルティングを含む解決策を提案しています。



## 環境に配慮した商品の開発・販売

### 【包装・資材】

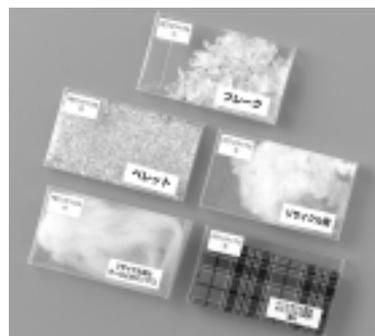
法人外商部のビジネスの一つに包装・資材ビジネスがあります。数多いリサイクル素材を使用した商品のなかでも、ポリエチレン製造大手・大倉工業のポリペットは、ペットボトルのリサイクルから生まれた新技術を使い、環境影響に配慮した優れた包装材です。西武百貨店では、いち早く同商品を環境商品として採用。中華惣菜などの内袋用素材として提案し、採用いただきました。



ペットボトルのリサイクル素材を使った袋

### 【ユニフォーム】

スクール・ユニフォームの分野で、再生ポリエステルを使った制服を採用する学校が増えています。品質、コストともにバージン素材と同等レベルになってきたことが追い風となっています。法人外商部では再生ポリエステル素材の採用をさらに推進するため、専門チームがデザイン・採寸などできめ細かいフォローを行い、環境商材の採用を拡大しています。



ペットボトルからフレーク、ペレット、綿になりウールとミックスされてさまざまな布地に再生

店舗別環境・社会活動レポート 環境活動トピックス

# 一店、一店が地域に役立つ環境活動をめざして取り組んでいます

## お客さま、行政、地域の皆さまとの活発なコミュニケーション

### 池袋店(東京都豊島区)

次世代との連携を高める  
「エコキッズ夏休み体験教室」

子どもたちへの環境教育の一環として2003年8月13日、「エコキッズ夏休み体験教室」を開催しました。当日のテーマは環境にやさしい石鹸の作り方。天然素材の石鹸パウダーに椰子の実オイルや各種香料を入れて練り、粘土状になったところで、クッキーの型抜きを利用してさまざまな形の石鹸を自由に作ってもらいました。参加したのは3歳から10歳の子どもたち。ご父兄も加わり、楽しくエコ石鹸を完成させていました。



### 富山店(富山県富山市)

市主催の「タウンモビリティ車展示・試乗会」会場に環境保全の大切さをアピール

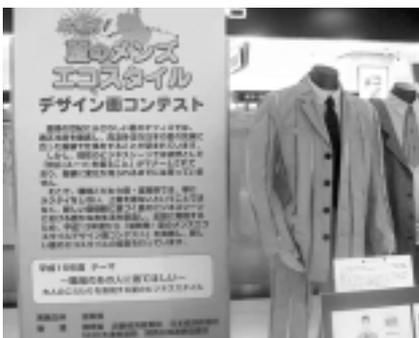
富山県エコショップ認定を受けた富山店は、環境活動の一環として取り組んでいる店舗外周の清掃活動などの地域貢献活動が評価され、2003年9月15日に開催された富山市主催のエコキャンペーン・「タウンモビリティ車展示・試乗会」の会場に店舗入口前広場が選ばれました。当日はテレビ、新聞などマスコミ各社が取材。盛況なイベントとして市民の関心を集めました。また、試乗会のノベルティグッズとして西武百貨店のオリジナルエコロジーバックが参加者に手渡され、環境保全の大切さをアピールしました。



### 大津店(滋賀県大津市)

全国から263点の応募  
「エコスタイルデザイン画コンテスト」

2003年7月4日から3日間、「職場のあの人に着てほしい」をキャッチフレーズに滋賀県が主催した「夏のメンズ エコスタイルデザイン画コンテスト」の最優秀賞候補の展示と投票審査が行われました。コンテストは、省エネルギーで冷房を抑えた職場でも働きやすく、ファッション性にも優れた作品を提案してもらうことが目的。全国から263点の応募があり、会場にはデザイン画から実際につくられた最優秀賞候補6点が展示されました。ネクタイをシャツに直接縫い付け、ジャケットから見える胸元と袖口をシャツ生地にし、他の部分は吸水発水性に優れた素材を使用したワイシャツと、裾が上げられるように工夫されたスラックスの組み合わせをデザインした、23歳の女性の作品が最優秀賞に選ばれました。



### 東戸塚店(神奈川県横浜市)

夏休みイベント企画のテーマは“環境”  
「ソーラーカー&電気自動車展」などを開催

子どもたちに楽しみながら地球環境保全に対する興味をもってもらうと、学校が夏休みに入った2004年7月23日から8月15日、「ソーラーカー&電気自動車展」、「ヨコハマ環境展」、「オーロラモールECOツアー」、「ヨコハマはG30 へら星人ミーオがやってくる」などのエコ企画・夏休みフェスティバルを開催しました。これからさまざまなエコ企画を行政、地域のお客さまとともに提案していきます。



### 高槻店(大阪府高槻市)

チビっ子たちが“店内ツアー”  
幼稚園児を招き体験学習

「環境月間」の2003年6月4日、高槻市内の幼稚園児を招き「体験学習会」を開催しました。園児たちは高槻店の環境活動について説明を聞いた後、“店内ツアー”に出かけ、環境商品や省資源・省エネ施設などを見学しました。



### 岡崎店(愛知県岡崎市)

森の緑を育てる活動に全面協力  
敷地内の「ふるさとの森づくり育樹祭」に参加

みどりの日の2004年4月29日、岡崎店が核店舗となっているイオン岡崎ショッピングセンターの育樹祭に、社員12人が参加。地域住民、ボランティア、小中学生のみなさんなどと、敷地内に開設された“ふるさとの森”の雑草駆除や追肥を行い、緑の大切さを訴えました。



## さまざまな工夫で一人ひとりの環境保全意識を高めています

### 船橋店(千葉県船橋市)

容器回収ボックスの認知度をグーンとアップ

再生可能な容器の回収は、資源循環型の暮らしを支える重要な仕事です。2004年6月、食品売場をリニューアルオープンしたのにあわせて、食品トレー・牛乳パック・ペットボトルなどの容器回収ボックスを、メイン通路に面した上りエスカレーター前に移動したことで回収量がグーンとアップ。廃棄物を減らすための身近で簡単なリサイクル拠点として、多くのお客さまにご協力いただいております。



### 所沢店(埼玉県所沢市)

社員食堂・食器洗浄シャワーの流量を1/5に

西武百貨店の社員食堂の多くは、食事を済ますと各自が食器を洗浄シャワーで簡単にすすぎ、残飯類を落としてから洗浄水槽に入れる仕組みになっています。この洗浄シャワーのムダな水量を減らすために2003年秋から、①平均使用時間に合わせ1回あたりの流水時間を15秒から3秒に短縮②使用頻度の低い両端の流水口を締め、中央部分のみを使用--などの節水対策を取り入れました。その結果、流量は5分の1に減少。目に見える節水対策に、社員の“環境意識”は一層高まりました。



食器を差し出すとセンサーで水が3秒間流れます

### 静岡店(静岡県静岡市)

毎月5日は“マイバッグ・デー”

静岡市マイバッグ・デー推進委員会と連携し毎月5日を“マイバッグ・デー(買物袋持参日)”に設定。お客さまがお買物をされる際に「レジ袋や過剰包装をお断りする」運動に参加しています。実施日には、店内放送でお客さまにお買物袋の持参を呼びかけているほか、西武オリジナルエコロジ・バックの使用を積極的におすすめするなど、ごみの減量に向けた取組みを地域と連動して行っています。



店舗別環境・社会活動レポート 社会活動トピックス

## 地域社会の一員として、 さまざまな貢献活動を行っています

### すっかり定着した全店で行っている店舗外周の清掃活動

#### 沼津店(静岡県沼津市)

「毎日」が外周清掃ボランティア!

昨年まで月2回行っていた店舗外周の清掃を地域の一員として、現在は「毎日」行っています。雨の日も風の日も担当する従業員が外周を清掃、第3土曜日は全社員がデッキブラシで歩道や店舗外壁を磨いています。また、月末はお得意様課全メンバーも清潔なまちづくりに取り組んでいます。



#### 札幌店(北海道札幌市)

産・官・学のネットワークを拡大

毎週1回のスケジュールで行っている店舗周辺の清掃活動をはじめとした札幌店の環境活動が、市内の「ISO14001」規格認証取得企業を中心に設立された「札幌EMS ネットワーク」を通して札幌教育大学に紹介され、2003年4月30日に業務部長と施設管理担当が講師として、これまでの環境活動を説明しました。7月15日には店内見学も行われ、地域住民、行政、企業ばかりでなく大学とのネットワークも広がっています。

EMS:環境マネジメントシステムの略



車道を清掃する従業員たち

#### 筑波店(茨城県つくば市)

店舗が一丸となって「クリンデ-」に自主的に参加

西武百貨店が核テナントとなっているショッピングセンター(SC)「クレオ」では、毎月第3土曜日を「クリンデー」として、開店前の時間を利用して駐車場・公園などSC周辺の広範囲な地域清掃を行っています。これに筑波店では、約100人が自主的に参加しています。お客さまに気持ちよく来店いただきたい、という思いを込めた清掃活動で、地域との共生をすすめています。



#### 有楽町店(東京都千代田区)

地域再開発で終了した地域清掃活動を単独で継承

有楽町駅前商店街のみなさんと一緒に実施してきた駅前清掃が、再開発計画の始動で商店街が閉鎖されることになり、本年3月にいったん終了しました。そこで、有楽町店では地域の方々への感謝の気持ちを込めて行ってきた環境美化運動を単独でも継続することにし、4月から環境管理委員会のメンバー全員で月1回(第2月曜日)、店舗の外周清掃を実施しています。



#### だるまや西武(福井県福井市)

市民環境アクションキャンペーンに賛同  
駅前街路地の清掃美化活動を実施

福井市ではエコロジカルなまちづくりを進めるよりどころとなる「福井市環境基本計画」を策定しています。この計画を市民・事業者・行政が、連携・協働して進めていくために『福井市環境パートナーシップ会議』という団体が設置されました。だるまや西武では、同会議が2003年6月の「環境月間」に推進した「市民環境アクションキャンペーン」に賛同し、毎週水曜日に駅前街路地の清掃美化と市民へのPR活動を実施しました。



安全で暮らしやすい地域づくりに積極的に協力しています

旭川店(北海道旭川市)

旭川音楽大行進

2004年6月5日、旭川の夏の風物詩となっている『第72回旭川音楽大行進』が行われ、終点となる旭川店前において夕方より、「旭川商業高校」と「旭川東光中学」の2校によるアフターコンサートを開催しました。6月13日には中高年アマチュアバンドのコンサートにも店舗前広場を提供。“音楽の街”旭川への協力が、中心商店街の活性化にもつながっています。



八尾店(大阪府八尾市)

違法・迷惑駐車防止啓発パトロール

違法・迷惑駐車が増え、後を絶たない近鉄八尾駅周辺の交通渋滞を緩和するため、地域住民のみならず、毎月1回行っている「違法・迷惑駐車防止啓発パトロール」に参加。路上駐車車両のワイパー部分にステッカーを挟み、違法・迷惑駐車禁止を呼びかけています。良好な交通環境を作るために、違法・迷惑駐車のない地域を目指して今後も活動を続けていきます。



渋谷店(東京都渋谷区)

渋谷センター商店街の環境浄化パトロールに参加

昨年夏に起こった誘拐事件を期に渋谷センター商店街、大型店、渋谷区、警察が一体となった「渋谷センター商店街・環境浄化パトロール」がスタート。毎月3回、昼・夕刻・夜と時間帯を変えて行われる防犯パトロールに西武百貨店も参加しています。2時間ほどの巡回で、違法な路上看板、キャッチセールス、路上アンケートを排除し、安心してお越しいただける安全な商店街をめざして地元との協力体制はますます強くなっています。



SCGP:Shibuya center-gai Patrol の略です

本宮西武(秋田県秋田市)

レストラン街に点字メニューを導入

これまでは視覚障害者の方々がレストランに来店された際、従業員がメニューを読んでいましたが、もっと自由に、よりスムーズにお好きなメニューをお選びいただくために、秋田県視覚障害者福祉協会の協力を得て「点字メニュー」を作成し、昨年12月から店内レストラン全8店舗に導入しました。



点字メニューは地元新聞でも紹介されました

## お客さまに信頼される百貨店として

お客さまの視点に立ち、安全・安心で心地よく過ごせる百貨店づくりに店舗施設、商品、接客サービスなど、あらゆる面から取り組んでいます。

### 安全・安心を基本として 食の豊かさを提供していきます

お客さまが食品に対してお持ちになる関心は、安全性はもちろん素材・製法・品質など、より幅広く深いものになってきています。そうした食品に関する情報ニーズにお応えしていくために、西武百貨店の本部機能会社であるミレニアムリテイリングは「商品適正表示小委員会」を設け、本部・店舗・関連部門が連携して商品の適正表示に取り組んでいます。食品の表示に関連のある「JAS法」「食品衛生法」「景品表示法」「健康増進法」に準拠しながら、運用自主基準・ルールを整え、現場での徹底を図っています。とりわけ、食品の安全・安心を維持する売場では、品質管理(原産地等の正しい表示)、期限管理(消費・賞味期限)、温度管理(冷蔵・冷凍庫)の強化を図っています。

#### 食品売場の 表示点検強化

店舗経営の最高責任者である店長が、食品売場の担当者とともに売場を回り、商品貼付ラベルや表示パネルの表示内容を確認するなど、販売部門、管理部門が一体となって表示点検を徹底しています。



#### 量り売りのお惣菜やレストランのメニューに アレルギー原料の有無を表示

お客さまが楽しみにしている「デパ地下」グルメ。アレルギーのある方でも安心してお求めいただけるように、量り売りのお惣菜やパンなどの個売り商品には、プライスカードに卵・乳・小麦・そば・落花生の使用有無を表示しています。またレストランにも、アレルギー表示付きのメニュー表をご用意しています。



黄色は卵、白色は乳製品、青色は小麦粉、  
緑色は蕎麦のシール

#### つねにレベルアップをめざしながら 食品の衛生管理に努めています

食中毒事故の防止や緊急時の対応手順などを整備するとともに、日常業務のなかでクリンリネスを徹底し、清潔な環境での生鮮品の調理、パッキング、鮮度管理に努めています。テナントやお取引先の店内での衛生管理を促進するため、食品部門・テナント管理担当者には衛生管理教育、健康管理のための検査や予防、店舗ごとの定期的な自主衛生点検を実施しています。



### 万が一の事態に備え 防災訓練・日常点検を確実に実施しています

毎月1回「防災の日」を設けて、防災訓練を実施しています。自衛消防組織を編成し、「通報連絡班」「消火班」「避難誘導班」「安全防護班」「救護検索班」の各々の任務を基本として、万一の場合にも冷静に適切な行動がとれる体制づくりを図っています。

また、安全安心のために次の項目について日頃から守るべきルールを定めています。

- |                          |
|--------------------------|
| ①避難導線の確保～安全に避難するために～     |
| ②防火設備の管理～迅速に消火するために～     |
| ③バックヤード*の管理～不審者を排除するために～ |
| ④喫煙ルール                   |
| ⑤安全確認点検                  |

\*バックヤード…後方施設(社員用の通路・倉庫・事務所等)



毎月1回の防災訓練を義務づけて  
います



## どなたでも利用しやすい バリアフリーの店舗をめざします

「ハートビル法」にもとづいて設計・建設された東戸塚店や岡崎店だけでなく、既存店でも施設の見直しや改善点の抽出を進めていきます。視覚障害のある方への点字ブロックや音声案内、車椅子の方が自由に店内を動き回るための売場や通路の段差解消など、課題は広範囲にわたりますが、着実に改善していきたいと考えています。

ハートビル法：「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」のこと。公共性のある建物において、出入口、廊下、階段、トイレなどを高齢者や障害者の方々が円滑に利用できる措置を講ずるよう努めなければならないことを定めているものです。

### コンシェルジュがお客様の あらゆるご要望に対応します

お客様一人ひとりのご要望に的確に応えるには、人的サービスの充実も大切。全店で80人となったコンシェルジュが、あらゆるご要望・ご相談に対応します。



### ハートフルアドバイザーが お客様のお買い物をサポート

高齢者や障害者のお買い物をサポートするための専門的な技術を身につけているハートフルアドバイザーは、全店で211人(2003年度末現在)に増えました。「安心して快適な買い物ができた」とお客様からご好評をいただいています。今後もさらに多くのハートフルアドバイザーによるお買い物のサポートができるよう、資格取得の研修を継続していきます。



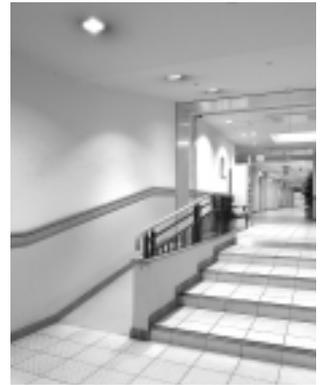
正面入口に設置されているハートビル認定建築物の表示(東戸塚店・岡崎店)



ハートフルアドバイザー = 高齢者や障害をお持ちの方に、お買い物を十分に楽しんでもいただくため助知知識と技術を身につけた従業員。2001年から「財団法人総合健康推進財団」による民間資格「ハートフルアドバイザー」取得を目指す研修を実施しています。

### 階段に隣接してスロープを設置

池袋店をはじめ東戸塚店、岡崎店などでは、車椅子のお客様やベビーカーがスムーズに入館・売場への移動ができるように、階段に隣接したスロープを設置しています。身障者やお年寄り、お子さま連れのお客様が、気軽に、快適にお買い物をしていただくために快適な店内づくりに努めています。



### 段差のない売場づくり

商品を陳列している売場と通路、試着のためのフィッティングルームと床面などの間に段差のない、フラットな売場づくりを推進しています。

また、車椅子やベビーカーごと入ることのできるトイレも全店で増やしており、車椅子やベビーカーでも安心してフロア内を移動することができます。



### 入り口には点字の案内板と 介助者呼び出し用のインターホン

「ハートビル法」に準拠した店づくりをしている東戸塚店などでは、店舗の入り口に点字の店内案内板を設置しているほか、エレベーターなど店内の主要施設に点字の案内を併設し、目のご不自由な方の便宜を図っています。また、入り口のインターホンからは、障害者の方々の介助する係員を呼び出すこともできます。



東戸塚店の入り口に設置された点字の店内案内板(上)と介助者呼び出し用のインターホン(左)



# 店も従業員も地域社会の一員です

地域のニーズに合わせた活動で貢献に努めます。

## 地域ネットワークに参加し、活動の機会を広げています

地域ごとに、求められる環境活動やその街に適した取り組み方法は異なります。そこで、西武百貨店では全社活動だけでなく、店舗それぞれが地域の一員としてコミュニティー・ネットワークに参加し、クリーン活動や環境教育など、多様な活動を行っていくことを奨励しています。

### 東戸塚店

#### 「かながわecoネットワーク」に参加しています

かながわecoネットワーク(神奈川県が運営)は、企業、NPO、行政、学校等の組織・団体が環境配慮のさまざまな取り組みを登録し、パートナーシップのチャンスをつくるためのインターネットのシステムです。東戸塚店は「率先実行」(温室効果ガス、廃棄物などに関する行動)および「パートナーシップ」(店舗見学、環境情報の提供など)の2活動を登録しています。



### 旭川店

#### 旭川市ごみポイ捨て禁止キャンペーンに参加

「西武百貨店は環境活動に積極的」との評判をいただいたことから、店長が旭川市の「廃棄物減量推進協議会」の委員に任命されている旭川店。2004年4月25日の街頭キャンペーンでは、店長をはじめ16人が旭川駅前に立ち、清掃活動とごみポイ捨て禁止の呼びかけを行いました。



### だるまや西武

#### 桜の季節を前に、足羽川堤防を大清掃

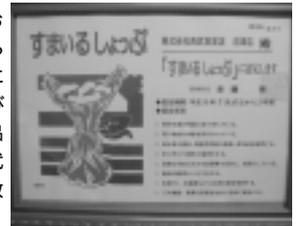
「桜の名所100選」にも選ばれた福井市・足羽川沿いの桜並木。その周辺一帯の清掃活動が2004年3月14日に29団体約1000人が集まり行われました。だるまや西武のメンバーも福井市観光協会のメンバーとして参加しました。



### 沼津店

#### 沼津市「すまいるしょっぷ」のメンバー店です

ごみの減量や資源化に取り組むお店を沼津市が認定する「すまいるしょっぷ」制度。2003年10月には制度のPRとごみ減量化を呼びかけるため、すまいるしょっぷ景品抽選会が開催され、沼津店は西武オリジナルエコロジーバック50枚の賞品協賛を行いました。



## 西武百貨店の活動をご紹介します 取り組みを行っています

毎年、新しい「環境報告書」を発行するごとに、地域の行政・商工会議所などに店長や業務部長がうかがい活動の説明を行うとともに、地域の環境ニーズ、西武百貨店へのご要望などをヒアリングしています。

2003年度は77カ所へ訪問させていただきました。2004年度もひきつづき活発なコミュニケーションに努め、地域への貢献活動につなげていく予定です。

西武百貨店に期待・要望されることは?

地域にもっと活動の広報を

行政の取り組みへの協力・支援	今後の環境活動の継続	その他	その他
21件	11件	4件	11件

(ISO取得を希望する地元企業があるときの支援、地元企業として環境活動で他社をリードしてほしい、行政の行うキャンペーンへの参加協力など)

# 社員との公正な関係づくりに努め、 “百貨店という仕事”のやりがいを高めます

## 実力をつけ、成果を拡大した社員を 公正に評価し処遇する人事制度

仕事の成果を公正に評価し、性差・入社年次・年齢などにとらわれない公平な人事制度を整備して社員を処遇しています。西武百貨店の特徴である自主的な“挑戦と革新”の社風をバックボーンとして、頑張った人、実力をつけ、成果を拡大した人を公正に評価し、高く処遇する実力・成果主義の人事制度です。

### 従業員の状況

2004年2月末現在

	社員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続(年)
本社員			
男性	1,757	43.0	20.3
女性	839	36.6	15.8
計	2,596	41.0	18.9

### 役職者男女別内訳

2004年7月現在

男性	82%	女性	18%
----	-----	----	-----

## 男女の差なく、各人の能力を発揮できる 雇用環境づくりを推進しています

社員一人ひとりが仕事と家庭生活を両立し、安心して業務に取り組み、十分に能力を発揮していけること。それが社員の活力を引き出し、お客さまに充実したサービスを提供する土台になる -- という考え方のもと、特に女性の能力発揮に積極的に取り組んでいます。また、出産・育児、介護などと仕事の両立をサポートする制度の充実など、働く意欲のある社員の要望に応じています。

### 社員をサポートする主な各種制度

**勤務時間短縮制度** 育児・介護・病気療養・自己啓発・ボランティアなどのために、一定の期間、就労時間を短縮して勤務する制度を設けています。また介護などのため転勤を一時免除する制度もあります。

**出産・育児休暇制度** 法律にもとづき、出産前休暇、出産後休暇、育児休暇の制度を設けています。

**セクシャルハラスメント相談窓口** 会社、労働組合双方がともに窓口を開設し、プライバシーを守りながら相談できる体制になっています。  
**企業年金・健康保険組合** 本社員のほかに一部のパートタイマー社員も加入しています。

**健康相談** 健康保険組合被保険者とその家族は、全国どこからでもフリーダイヤルで、健康・介護・妊娠・出産・メンタルヘルスについて専門家のアドバイスを受けることができます。

## 社員自身の手で健全な企業体を維持する 仕組みを構築しています

経営の透明性の確保とコンプライアンス(法令遵守)は、企業が社会的責任を果たすうえで最も大切なポイントです。西武百貨店は、社員自らが経営情報を経営トップと共有し、社員間コミュニケーションの場を設定して健全な企業体質を構築しています。

### イエローホイッスル制度

経営の透明性を確保し、コンプライアンスの意識を徹底するために、2004年6月から「イエローホイッスル制度」をスタートさせました。これは、第三者である社外法律事務所と契約し、社員が「おかしい」と思ったことを直接、社外の法律事務所(弁護士)の窓口で通報できる制度です。法律事務所は社員からの通報をもとに実態を調査し、経営層に報告、勧告する義務があります。企業の倫理や行動規範に社会の厳しい目が注がれているなか、不祥事を防ぐ強力な武器になっています。

### 職場会議の開催

毎月最低1回、最小単位の労使協議体として、各課(部)単位で開催しています。時間管理の徹底、職場環境の改善など、各職場に密着した課題・問題を中心に、部門長と課(部)員が話し合い、職場内での問題解決を図っています。職場内での解決が難しい問題については、店舗の問題として店幹部に支援要請をしています。職場会議で話し合われた内容は議事録として整理し、全社員に公開しています。



# 西武百貨店の環境・社会活動に関する 情報提供やお問い合わせにお応えしています

## 情報発信

### 【環境活動報告書】

2000年度版(2000年9月発行:初版)  
環境マネジメントシステム導入からISO14001規格の認証取得、第1回目の定期審査までの活動報告

2001年度版(2001年8月発行)  
環境負荷の少ない商品開発と店舗運営の仕組みなどを紹介した前編と、環境マネジメントシステムに関する情報を掲載した後編の2部構成

2002年度版(2002年6月発行)  
2001年度版をさらに進化させ、環境保全活動・社会貢献活動を報告した本編と、環境マネジメントシステム編を分冊化

2003年度版(2003年9月発行)  
「環境・社会活動報告書」と名称を改め、環境的な側面に加え、経済的・社会的な側面を含めて報告  
サイトレポートとして地域や店舗の特性に即した個々の取り組みについても紹介

2004年度版(2004年8月発行:本誌)  
環境的な側面を中心としながら、企業の社会的な責任に基づく取り組みとして社会的・経済的な側面を含めた報告  
2003年度版で環境目的・目標の達成度に重点をおいた各店舗の活動状況を地域社会に貢献する情報に絞り込んで紹介

### 【インターネット】

西武百貨店ホームページの中に環境サイトを開設しています。

#### 「環境への取り組み」



<http://www.seibu.co.jp/corporate/ecology/main.html>  
ISO14001規格認証取得サイト/環境方針/前年度の活動報告/環境・社会活動報告書(PDF)トビックスを掲載

#### 「エコキッズルーム」



<http://www.seibu.co.jp/corporate/ecology/ecokids/>  
小学校高学年のこどもたちを対象に、地球にやさしいデパートの活動を紹介

## 環境情報への対応

2003年度(2003年3月1日～2004年2月29日)に社外のステークホルダーから受信した環境情報は56件。

アンケート・調査等への協力依頼	21件
キャンペーンへの協力・エコフェア出展依頼	14件
外部団体への参加依頼・講師依頼	9件
法規制・条例・その他情報	4件
苦情・ご意見	2件
お礼状	1件
その他	5件

### 〔事例〕

【03年3月】  
高槻店は、大阪府より「グリーン購入シンポジウム」にエコバックの出展を求められ、参加しました。当社の企業姿勢が来場者に評価され、手にとって材質を確かめたり、デザインに関心を持ってくださった方も少なくありません。今後もエコバックで環境にやさしいショッピングスタイルをより広めていきたいと考えています。

### 【03年6月】

2003年度、全店で実施した駅前・店舗周辺清掃はのべ445回。札幌店ではお客さまから「9時30分頃、デパートの近くを通りました。清掃員の方ではなく、社員の方々がちり取りと箒を手になんげ懸命、周囲をきれいにしている姿に心を打たれました。環境の美化に心がけていらっしゃる事と思い私達もなるべくゴミは捨てないようにと思った次第です」とのお褒めの言葉をいただきました。

### 【03年11月】

沼津店では中学校の校外学習として、施設のバリアフリーに関する店内案内を受け入れました。ハートフルアドバイザー資格をもった社員による丁寧な説明に、生徒さんから心のコモったお礼状をいただきました。

### 【03年8月】

八尾店に、近隣にお住まいのお客さまから「早朝納品の車両がエンジンをかけたまま待機していることにより発生する騒音と排気ガスに配慮すべき。待機中はエンジン停止を徹底して欲しい」とのお叱りの言葉がありました。直ちにお取引先にアイドリングストップの徹底を依頼するとともに、翌日から「アイドリングストップのお願い」というピラを作成し、納品車両1台1台に配布、要請しました。

## 環境・社会活動のあゆみ < 2004年6月までの活動を含む >

- 1990年7月 エコ包装の取り組み開始。包装紙・手提袋・名刺などの社内用品に再生紙使用開始
- 1991年8月 「西武百貨店エコロジーハンドブック」発行
- 1992年8月 独自の「環境商品基準」に基づいた環境商品にアイキャッチマーク(エコノザウルス)表示
- 1995年3月 関東圏10店舗で「ハンガー納品」システム導入開始
- 4月 ファミリー・ケア・ダイヤル開設
- 9月 成果主義に基づく新人事制度、目標管理制度を導入
- 1998年3月 社内報で環境活動についての連載開始
- 4月 ISO14001規格認証取得に向けた活動を開始
- 8月 女性社員の制服に再生ペット素材を使用
- 9月 「環境方針」制定
- 11月 環境活動アイキャッチマークを社内募集
- 1999年4月 ISO14001規格認証取得(4月9日)



- 10月 ハートビル法モデル店・東戸塚店開店(エコステーション設置店)
- 2000年4月 西武百貨店「環境記念日」(4月9日)を制定
- 6月 「西武オリジナルエコロジーバック」販売開始



- 9月 『環境活動報告書2000』発行。環境会計を掲載
- ハートビル法モデル店・岡崎店開店(エコステーション設置店)
- 2001年4月 西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコロジー・バック」収益金の一部を地球環境基金へ寄付
- 6月 ハートフルアドバイザー資格取得開始(高齢者、身体障害者のお買い物サポート)
- メンタルヘルスカウンセリング導入
- 8月 『環境活動報告書2001』発行
- 10月 「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第1回)
- 11月 池袋店に生ごみ処理機7台導入
- 12月 敬宮愛子さまご誕生記念「子供たちの未来の森」苗木配布
- 「エコプロダクツ2001」出展

- 2002年2月 「商品適正表示小委員会」設置
- 3月 使用済みプリペイドカード「みんなで集めようキャンペーン」で財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)に寄付
- 4月 ISO14001規格 第1回登録更新
- 西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコバック」収益金の一部を地球環境基金へ寄付(第2回)
- 6月 『環境活動報告書2002』発行
- 西武のおすすめする環境配慮商品の表示開始
- 「eco包装アイデア」社内コンテスト実施
- 8月 本金西武に生ごみ処理機2台導入
- 10月 本社員向け環境教育に「eラーニング」を導入
- 「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第2回)
- 「エコプロダクツ2002」出展



- 2003年3月 使用済みプリペイドカード社内回収を財団法人ジョイセフに寄付(第2回)



- 5月 「環境方針」改訂(新しく経済・社会視点を追加)
- 6月 ミレニアムリテイリングの事業会社として再スタート
- 温室効果ガス排出量取引試行事業(環境省/三菱総合研究所)に参加
- 9月 『環境・社会活動報告書2003』発行
- 10月 「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第3回)



- 12月 ミレニアムリテイリング3本部(総務・商品・テナント)環境活動開始
- 2004年2月 本社員に加え一部契約社員に環境「eラーニング」を導入
- 5月 ミレニアムリテイリング3本部(総務・商品・テナント)ISO14001規格登録
- 6月 イエローホイッスル制度導入

=環境活動      =社会活動



表紙写真・吉野 信

**西武百貨店の関連会社八ヶ岳高原ロッジで、自然の大切さ、環境保全の重要さを垣間見ました。**

スギゴケに一面覆われた地面から成長するカラマツの実生(種から芽が出て成長すること、また成長する稚樹をいう)。カラマツは、日本特産のマツ科の落葉針葉樹で、芽吹き、黄葉が美しい。写真の稚樹の高さは約3cmだが、成長すると普通20~30m、大きいものでは高さ50mにも達する。

---

お問い合わせ

**株式会社 西武百貨店 店舗運営部環境推進担当**

〒171-8569 東京都豊島区南池袋1丁目28番1号 西武百貨店池袋店書籍館6階  
電話03(5949)3514 FAX 03(5949)3550

西武百貨店ホームページ <http://www.seibu.co.jp>

※トップページの「お問い合わせ」から、インターネット経由でもご質問等をお受けしています。

発行日 2004年8月31日

次回発行予定 2005年8月31日

前回発行日 2003年9月30日



本誌はエコマーク認定の再生紙・大豆油インキを使用し、再生可能です。

---